

【2024年度】児童発達支援事業所における自己評価総括表(公表)

○事業所名	ハッピーライフいくの				
○保護者評価実施期間	2024年11月20日 ～2024年12月20日				
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	0	(回答者数)	0	
○従業者評価実施期間	2025年1月15日 ～2025年1月31日				
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	5	
○事業者向け自己評価表作成日	2025年2月10日				

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	事業所の広さやこどもの特性を生かした運動や遊び	事業所の広さを存分に活用してボール遊びや鬼ごっこ等の運動や遊びを取り入れている。また、特性や保護者様のニーズに合わせた特色ある遊び、活動を取り入れている。	さらに研修や勉強会へ積極的に参加して遊びや活動の幅を広げていく。
2	保護者様との密な連携を心掛けている	送迎時や定期面談時にこどもの様子、課題、ニーズ等を話し合っている。また、必要に応じて電話面談を実施して情報共有が不足しないように心掛けている。	さらに日々の情報共有に努めるとともにSNSでの発信を強化して児童の様子の『見える化』を図る。
3	法人内事業所同士の交流、合同イベントの実施。	季節ごとの活動内容を検討し、たくさんの児童との交流を目的に特色ある企画検討を行っている。	他の事業所との交流を恒例企画となるようにし、子どもたちが次の機会への期待感につながるようにしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童の年齢の幅が狭い。	小学生低学年～中学生に年齢層が偏っていることから幅広い年齢層のこどもと触れ合う機会が少なくなっている。	地域の放課後等デイサービス事業所や法人内事業所と多く交流し、幅広い年齢層のこどもと触れ合えるように工夫していく。
2	学習支援にほとんど関与していない。	遊びの中から社会性を身に付け成長していくことを事業所のコンセプト・目標にしていることから学習に対して十分な関与をとることができないことがある。	コンセプトの中で必要に応じて学習に対してサポートをしていく。
3	個別での発達支援	集団での活動を主としていることから個別での発達支援ができていない。	小集団で個別に近い形で発達支援を実施していく。